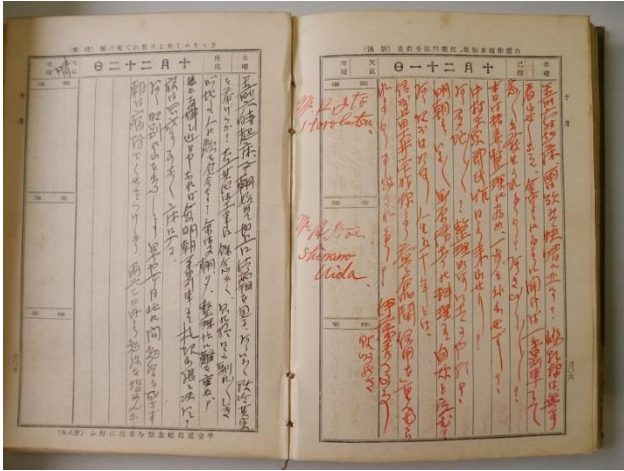


登別市史編さんだより

金井抱二日記を一緒に読み解きませんか？



金井抱二日記の一部 (市郷土資料館所蔵)

市史編さんグループでは、市民の方とともに明治末から大正にかけて幌別鉱山の所長代理を務めた金井抱二^{かない ほうじ}さんの日記の読解を始めました。

この日記には、幌別鉱山だけではなく、その他の地域での出来事についても記録されており、このような資料を読み解くことで、書かれた当時の様子を知り、歴史上の出来事をより身近に感じることができるようになります。

書かれている文字も少し読みにくい部分がありますが、くずし字ではないため、読解が初めての方でも取り組みやすい文字です。また、日記ですので一話読み切りのようにしており、

途中からでも問題なく参加いただけます。日記の読解や幌別鉱山をはじめとする地域の歴史に興味がある方は、市史編さんグループ (☎50-6039) までご連絡ください。

市内にある自然～きのこ～



市内で撮影されたエノキタケ (熊谷和夫氏提供)

左の写真のキノコは何だかわかりますか？

現在、市内では約250種類(注)のキノコを確認することができ、その半分が「食べられる」種類、残りが「食べられない」又は「毒があるか不明」な種類となります。

「食べられる」キノコでも、そのときの体調や飲酒後など状況によっては体調を崩す種類もあり、慣れないキノコには注意が必要となります。

市史なのにキノコ？

と思われる方がいらっしゃるかもしれませんが、市内で見ることのできる動植物や菌類の記録は、“自然探索の道しるべ”になるとともに、違う時期の記録と比較することにより、自然の変化(自然史)を知る手掛かりとなります。そのため、今回も市史の中に記録していきたいと考えています。

冒頭の答えですが、野生のエノキタケです。

食料品店などで見慣れた白く細長いエノキタケとは大きく異なりますが、栽培品に負けず劣らず大変おいしいキノコだそうです。

注：室蘭きのこの会の調査による。

街並み今昔（昭和40～50年代の富岸地区）

今回の写真は、生まれも育ちも富岸地区の方からお借りしたものと市が所蔵する写真です。少し角度が違いますが、昭和40～50年代と現在の富岸地区を見比べてみてください。

●富岸町2丁目28番地付近



昭和45（1970）年頃



現 在

現在は自動車道も歩道も舗装されている学田通（正式な路線名は「鷲別学田路線」と言います。）ですが、この道路も昭和45年頃は細い砂利道でした。

自動車の交通量が少ない当時の道路は、子供たちの遊び場でもありました。

●若山町4丁目33番地（現イオン登別店）付近



昭和53（1978）年



現 在

現在、イオン登別店のある場所から亀田記念公園の方向を見た風景です。

左には西富岸川が流れ、右端にはこの年の4月に移転開校した富岸小学校が見えます。

この40年間で富岸地区は、水田や畑が広がる農業地帯から住宅地へと大きな変貌を遂げました。

◎資料に関する情報提供のお願い

市史編さんグループでは、昔の登別を知る手掛かりとなる資料についての情報を集めています。

お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりのある方はご連絡ください。

（連絡先）登別市総務部市史編さんグループ 千葉・更科・玉田・小坂

電話：0143-50-6039 FAX：0143-85-1108